



## 国内の自動車保有台数、今年2月末に初の8千万台超 年内は8千万台前後で推移、 2～3年後には少子高齢化から減少へ

自動車検査登録情報協会によれば、今年2月末、国内の自動車保有台数が初めて8千万台を超えました。80,010,570台となり、8千万の大台から10,570台上回ったのです。

2008年7月、8千万台突破を目前に腰折れ。以降、「人口の減少や若者のクルマ離れを理由に国内保有台数は減少に転じる」との報道が続いていました。

ところが、保有台数は東日本大震災による被災をも乗り越えて、徐々にではありますが回復基調となりました。

1966年（昭和41年）から始まる、別表の自動車保有台数の推移を示すグラフをご覧ください。2008年まで保有台数（乗用車+貨物車）は一本調子で右肩上がりではありますが、貨物車はバブル経済崩壊後の1991年から大きく減少に転じています。

この20年間で、実に貨物車保有台数が600万台強落ち込んでいることに注目して下さい。比率にして約30%の減少となっています。

貨物車の減少傾向は未だ収束してはおらず、この間の景気後退がいかに深刻だったか

を如実に物語っています。日本経済にとって「失われた20年」を顕著に表しているとしても過言ではありません。

それが、今年2月末に8千万台突破したのです。翌3月には、例年の年度末抹消手続きの増加などから、5ヵ月振りの減少で79,625,203台にリバウンドしたものの、新年度4月からは、再度微増傾向に振れています。今秋には再び8千万台への突入が確実視されています。

そして、当分8千万台前後の高原状態で推移し、その後は、少子高齢化等の本格的な人口減少から、国内保有台数の長期的な下降進行が避けられない状況を迎え、本格的な自動車アフターマーケット市場の縮小化が進むものと考えられています。

当面は保有台数8千万台マーケットが続くとも思われますが、課題は、保有車種構造の変化にも対策が必要と思われることです。

それは、保有台数に占める軽自動車の割合が、すでに35%を超えているという現実です。

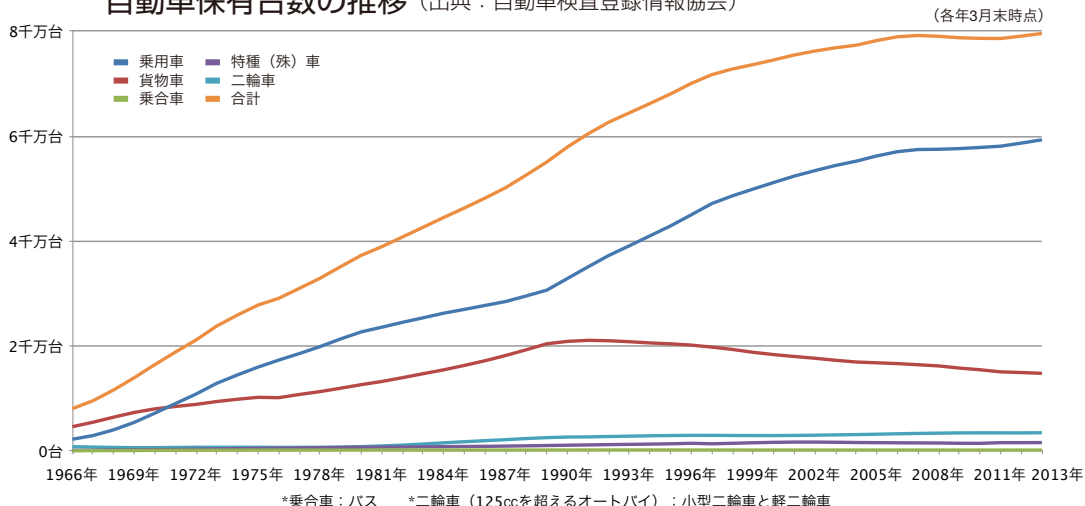
近年の新車の売れ筋を見ても上位10車種の内、コンスタントに7車種を軽自動車が占めています。保有台数の内、軽自動車が4割を超えるのも時間の問題と言えるでしょう。

したがって、今後の自動車整備事業者は、軽自動車ユーザー向けのサービスを視野に入れておく必要があります。軽自動車ユーザーは、経済的に安価な一般整備、板金修理を期待する傾向が強くなります。

そんな時、リユース部品利用などの情報提供や見積書サービスの提案ができるよう、リサイクル部品対応へのインフラを準備されるのも一考です。

「クルマ直しの、新しい選択」のNGPエコひろばホームページへの工場登録など、最寄りのNGP組合員まで気軽にご相談されてはいかがでしょうか。

自動車保有台数の推移（出典：自動車検査登録情報協会）



# 中古車販売は、7年振りに増加へ 本格的回復は期待できるのか…

2012年度の中古車登録・届出台数は前年度比4.4%増の6,889,742台

中古車市場の状況をレポートします。日本自動車販売協会連合会（自販連）がまとめた中古車登録台数と、全国軽自動車協会連合会（全軽自協）の軽中古車販売台数を合計する2012年度（2013年3月末）の中古車登録・届出台数は、前年度比4.4%増の6,889,742台となり、7年振りに増加に転じています。

これは、エコカー補助金の効果により新車販売が好調だったことが、下取車の増加に繋がったものと考えられます。しかしながら、ピークの1997年度比からすれば7割弱の水準で、4年連続の700万台割れと、本格的な回復はほど遠く、厳しいマーケット状況が続いていると言えるでしょう。

## エコカー補助金は、 中古車マーケットには 逆風だったのか？

自販連が発表する2012年次（1月～12月）の中古車登録台数は、3年振りに400万台を超え4,015,909台となったものの、自販連では、「小売が伸び悩んでおり、中古車マーケットには本格的な活況が戻ってはいない」ことの懸念を示唆しています。

さらに、中古車登録台数と新車登録台数の比較では、過去の傾向を見ますと、中古車登録台数が新車のそれを30%程度絶えず上回り推移していました。しかし、2012年度は、その差が約18%と縮まっています。エコカー補助金制度の効果が、新車販売の限定的効果に留まり、中古車マーケットにとっては効果が及ばない経済対策であったと評せざるを得ないと思われる。

一方、全軽自協のまとめによると、軽自動車の2012年度届出台数は、前年度比6.2%



増の2,910,625台で2年連続の増加となっています。特に軽乗用車が3年連続で伸長しており、軽乗用車に限り好調さは、今後も続くものと推測されます。

## オークション流通は、 4年振りに増加に転じ、 中古車輸出は100万台へ乗せる…

2012年次の中古車オークションにおける流通台数は、出品台数が前年比12.1%増加（年間7,216,497台）で4年振りに増加に転じています。しかしながら、成約台数は7.1%の増加に止まり、その平均成約単価は42,000円へ減少と、好材料とは言えない現象でした。出品台数は増えたものの良質な中古車の流通には至らないという厳しい現状が続いています。

この中で特筆すべきは、中古車輸出業者の存在です。低価格車の出品が増えたことが、輸出業者にとっては、仕入環境改善につながっています。日本中古車輸出協同組合（中輸協）によると、2012年の年間中古車輸出

台数は、前年比17.1%増の1,004,845台となっています。輸出車両のマーケットは4年ぶりに100万台突破の回復基調へ転じています。

中古車輸出は過去、2008年度は130万台ありましたが、翌年のリーマンショックでは65万台に半減しました。以降、2010年度83万台、2011年度85万台と、厳しい状況下に置かれていたのですが、今年に入り、円安効果も加わり低年式車の流通が活発になったことで好転しているものと推察されます。

現在、日本車は世界185カ国へ輸出されています。国別で見るとロシア、ミャンマー、アラブ首長国連邦が上位3カ国となっています。ロシアは輸入中古車の関税引き上げに踏み切ったことで台数減につながると予想されていましたが、2012年は引き続き首位を守っています。2位は経済躍進が著しいミャンマーが躍り出た格好です。

中古車輸出台数は、今年は120万台超が予想されていますが、どのような結果になるか注目されております。

## NGP 今月のCO<sub>2</sub>削減量



リサイクル部品利用に伴う削減効果

※NGPをはじめとしたリサイクル部品販売事業12団体は、グリーンポイントクラブを作り、リユース部品、リビルト部品を利用することで達成できたCO<sub>2</sub>削減量を利用者の皆様にお知らせしています。ご協力ありがとうございます。

NGP 平成25年5月： **6,418t**    NGP 1月からの累計： **33,034t**    (全12団体 1月からの累計 **58,248t**)



リターナブル梱包材利用に伴う削減効果

※リターナブル梱包材の利用に伴う削減効果はNGP協同組合独自のCO<sub>2</sub>排出量削減の取り組みです。段ボールに代えて、専用梱包材を繰り返し使用することを前提に削減効果を試算しました。

NGP 平成25年5月： **23.4t**    NGP 1月からの累計： **125.1t**

## 第23回基礎研修会を開催

# お客さま第一の思いでみんなが一つに！ グループの絆が生みだす高品質と高い信頼

6月27～30日、BumB（ぶんぶ）東京スポーツ文化館（東京都江東区）で、NGP協同組合の第23回基礎研修会が開催されました。今回は参加費を本部負担としたことで、北は北海道から南は鹿児島まで、年齢層も下は18歳から上は60歳まで、NGP組合員の各社から総計127人もの新入社員たちが集まりました。

参加者は、8つの班に分けられ、まずはNGP三大信条や「NGPソング」などを暗記することで、NGP基本理念を徹底して叩き込まれます。そして集団行動の整列・ラジオ体操・挨拶については、整列位置やタイミングを班の全員が完璧に揃えつつ、声・スピードとも全力を出し切っておこなわなければなりません。出来るまで何回でもやり直しとなり、連帯責任の「NGPの絆」を体得するまで続けられます。今回は、近年稀に見る厳しい訓練でしたが、全員が乗り越え見事合格しました。

3日目に応援に駆けつけた大橋岳彦会長は、「この厳しい訓練は私を含めNGPの誰もが乗り越えてきたもの。みんなで力を合わせ



猛暑の中応援に駆けつけ、参加者を励ます大橋岳彦会長



8班のうち一つは女性だけのチーム。素早い決断と連携で男性陣を圧倒



修了式で行われた代表者の決意表明。表情は緊張感と覚悟に満ちている

頑張ってください。」と、参加者を激励しました。

ケーエー車輛の川村悠子さんは「今までは、NGP三大信条やNGPマン心得五ヶ条も頭に入っているとはいえ、その言葉の真の意味を考えたりしたことはありませんでした。けれども、研修で他のメンバーと気持ちを合わせること、揃えることを意識しながら必死に目標に向かって取り組んだことで、グループが生産する商品の品質を統一させることが、お客様の信頼を得るための最大の武器であり、最良のサービスにつながるのだと学びました。」と、NGP組合員全員の力を結集することの重要性について話していました。

オートリサイクルナカシマ福岡の古賀翔さんは「今までの自分は少しでも嫌気がさしたらすぐに諦めていました。ですが、班の方た

ちと心をつ一つにしようとするので、自分の限界は今まで勝手に都合のいいように自分で決めていたことがわかり、とても情けなくなりました。限界はないということがやっとわかりました。」と、限界に挑戦し乗り越えることの大切さを学ばれたとのことでした。

そして修了式では、「NGPの基準に沿った商品の形状登録をおこない、NGPの登録商品の品質を揃え、お客様に安心していただける商品を提供していきます。」（石上車輛恵庭工場・丸山達也さん）、「ただ仕事をするのではなく、お客様のために仕事をする。お客様がいるからNGPグループが成り立っていることを忘れないようにします。」（大橋商店・横田秀さん）と、NGPマンとしての決意を表明しました。

## 南商会在システム賛助会員から正組合員へ

### 第43回初期指導研修会を開催

北海道支部システム賛助会員の南商会（南竜也社長、札幌市清田区）がNGP協同組合の正組合員になり、NGP部品の生産販売に取り組みます。6月1～2日、NTT北海道セミナーセンタ（札幌市中央区）で実施した第43回初期指導研修会を受け、修了しました。

南商会は、1973年の創業当時より、札幌市内で自動車の解体およびリサイクルに取り組んでいる会社です。同社は2006年に生産賛助会員として入会し、2009年9月のNGP協同組合制度変更に伴いシステム賛助会員となりましたが、このたびリサイクル部品の販売で事業を安定させたいという強い意向のもと、晴れて正組合員への移行を果たし

ました。NGP代表者は小柳孝行常務です。

南社長を含む9人の社員全員が参加した研修会では、NGP協同組合の理念・沿革・組織体系や、株式会社NGPの事業内容について説明を受け、同社の生産売上・部品売上の事業計画を作成しました。そして整列・ラジオ体操・挨拶など、基礎研修会と同様の厳しい訓練に2日間の日程のほぼ半分を費やして臨み、お客様第一を徹底し何事にも本気で取り組むことの大切さを学びました。

南社長は「社員9人で

構成している会社なので、中古パーツの売上900万円／1ヶ月を必ず達成できるよう社員とともに力を出し、皆様に愛される会社づくりをさせていただきます。」と決意を表明され、NGP正組合員としての全社一丸となった取り組みがスタートしました。



NGPの基本理念などを改めて徹底的に学ぶ



正組合員となった南商会と講師メンバー

#### 新規入会組合員紹介

支部	会社名	代表者	住所	電話番号	FAX番号	加入日
北海道支部	株式会社 南商会	代表取締役 南竜也	北海道札幌市清田区有明340番地5	011-882-1770	011-884-3804	25年5月31日



コメント（常務取締役 小柳孝行）

6月1日・2日の初期指導研修会を、社員全員で受講いたしました。研修の内容は厳しいものではありませんでしたが、社員同士の輪（つながり）の大切さを改めて実感し、自分自身の愚かさや過ちに気付いたことなど、とても良い研修会でした。我が社は2006年にNGPグループの生産賛助会員として入会し、今まで頑張ってきましたが、私たちの業界も年々厳しさを増していく中、やはりリサイクル部品販売で事業を安定させていくには、NGPの正組合員になることを考えました。今後は社員全員の力を結集して、着実に前へ進んでいきます。最後にNGPグループの皆様、「よろしくお願いたします」。



## オートパーツ伊地知、「地球環境を守る かごしま県民運動推進大会」で、優秀団体表彰を受賞

約20年にわたる地域の清掃活動を通して社員の環境意識向上を評価される

オートパーツ伊地知（伊地知志郎社長、鹿児島県鹿児島市）が6月4日、「地球環境を守るかごしま県民運動推進大会」平成25年度環境保全活動優秀団体表彰を受賞しました。

かごしま県民交流センター中ホールで、同大会を主催する「地球環境を守るかごしま県民運動推進会議」（事務局：鹿児島県地球温暖化対策課）より表彰状が授与されました。

同大会は、地球環境保全のための具体的な実践活動に取り組み、かけがえのない地球環境を守り育て次の世代に引き継いでいくことを目的に、地球温暖化をはじめとする地球環

境問題についての理解と認識を深めることにより、県民運動のさらなる発展を図るというものです。

オートパーツ伊地知は同大会において、ごみリサイクルに取り組む10団体に選ばれ表彰を受けました。

伊地知社長は「当社では近隣の清掃を約20年続けているほか、2001年にはISO14001を取得して、環境に配慮する企業経営に取り組んでいます。それらが、NGP協同組合の推進する環境改善活動ともリンクした結果、今回の受賞につながりました。これからも自動



表彰を受ける伊地知社長（右）



授与された表彰状と盾

車リサイクル事業を通じた環境保全活動に、なお一層取り組んで参ります」と、表彰受賞の喜び、今後の意気込みを語られました。

## 西川商会および山陰エコ・リサイクル、 災害時支援体制の全面協力へ

鳥取県および鳥取県内19市町村と「被災車両の撤去等に関する協定」を締結

NGP協同組合の西川商会（鳥取県鳥取市）の西川正克社長が会長、山陰エコ・リサイクル（島根県松江市）の福島伸光取締役が副会長を務める山陰ELVリサイクル協議会が、鳥取県知事公邸で、鳥取県および鳥取県内19市町村と「災害時における被災車両の撤去等に関する協定」を締結しました。

同協議会は東日本大震災の際、日本ELVリサイクル機構からの要請を受け、NGPグループの宮城県仙台市の被災車両撤去活動に参加しました。

その経験を活かし、鳥取県内で大規模災害が発生した場合、被災した車両の撤去・移動などを迅速に実行、被災地を少しでも早く復旧・復興できるよう、鳥取県および県内の市町村、同協議会と協力体制を構築したものです。

平成25年3月26日の協定締結式には、平井伸治鳥取県知事、竹内功鳥取市長、石操日吉津村長などが参列されました。協定書に署名後、平井鳥取県知事が、「初期段階の復旧

活動で妨げになる被災車両の撤去に、プロの力をお借り出来ることは心強い。」と感謝の意を述べられました。

西川社長が代表として挨拶に立ち、「協定締結が完了し、災害時の支援体制が整いました。私たちの専門知識や技術、また東日本大震災時の支援経験を活かし、微力ながらお手伝いさせていただきます。」と誓いの言葉を述べられました。



締結式での平井知事と西川社長（右から2人目）



同じく締結式での福島取締役（右）

山陰ELVリサイクル協議会では、「山陰地域で災害が発生した場合、当協議会の会員も被災し、活動できないかもしれません。その際は、NGPグループの皆様へ支援要請をお願いすることになるかと思っておりますので、会員各位におかれましては、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。」と、NGP組合員に対し協力を呼びかけています。

### 訃報



6月13日、太田部品（静岡県御殿場市）の太田広（おたひろし）代表取締役が逝去されました。故・太田広代表取締役は、1992年2月に同社がNGPグループへ入会後、2000年9月に南関東ブロック長、2002年9月には商品管理部部長に就任しました。NGP協同組合第1期となる2004年9月から2007年9月までは商品管理理事、2009年9月から2011年8月までは監事および(株)NGP監査役を歴任されるなど、NGPの発展に多大なるご尽力をいただきました。

享年60歳。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

### NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F  
TEL:03-5475-1208 FAX:03-5475-1209  
http://www.ngp.gr.jp/

### 株式会社NGP

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F  
TEL:03-5475-1200 FAX:03-5475-1201  
http://www.ngp.co.jp/